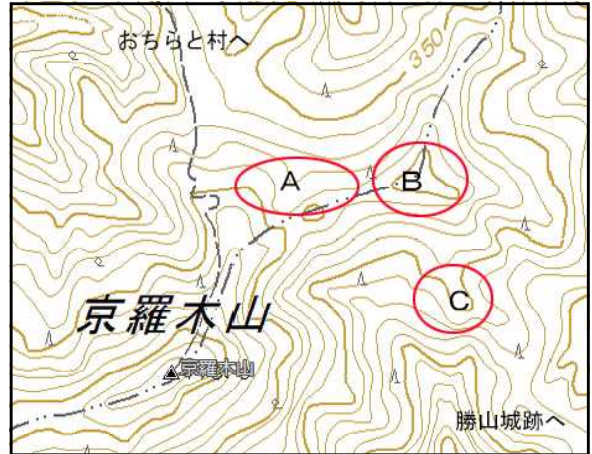


京羅木山城跡の新しい発見

藤井 諭

京羅木山と三群山の間に、大規模な住居跡と棚田跡を見つけたので、会員にも紹介したい。遺跡は地図で示すAの位置である。Bは三郡山で安来、広瀬、東出雲の境であり、強固な構造の砦跡がある。月山富田城を見下ろす毛利軍の砦であったことで知られる。峠の石地蔵から広瀬側に少し下ったところにCの溜池・棚田跡があり、これらは高屋茂男編「出雲の山城」で紹介されている。

私が見つけた溜池・棚田跡は京羅木山と三群山の間にある。おちらと村からの登山道からは、「神庭町」の標識から登山道に入りしばらく進むとある。峠の石地蔵からだと、京羅木山に向かってトラバースする道を進むとある。住居跡もあり、100m以上の長さに大規模な遺跡群が続いている。尼子・毛利の戦国期に多数の兵士が、山頂で米を作って長期戦で生活していたと思われる。しかしこの溜池・棚田跡は、高屋茂男編「出雲の山城」には記述されておらず、他に記録がなければ新しい遺跡の提案ということになる。



上の写真は山頂直下にある溜池である。冬の季節は雪が降り水は満杯だが、夏や湯水期には枯れるであろう。山頂直下のため湧き水はなく雨水のみである。ワサビ田という見解も考えられるが、冷水を好むワサビの栽培は無理だろう。稲作の田んぼの見方が妥当である。



下の写真が私が見つけた棚田である。前述の溜池の直下にあり、水が順次供給される構造となっている。今まで歩いて気付かなかったのは、普段はヤブに覆われて棚田に見えなかったためである。今回訪れたのは1月8日で、前週に積もった雪が残って段々が白く浮かび、明瞭になったためである。

山城は長期戦の場合には生活の場ともなる。食料の確保が重要で、麓からの補給が遮断された場合を考えなければならない。高所での稲作は難しく収穫もあまり期待できないが、いざという時には生命線となる。そのために棚田を作ったのではないかと。今年5月の定例山行で勝山城跡とセットで詳しく解説する予定であり、多くの会員の参加を期待したい。

